

知の創造拠点を支える

大学教育センターたれ



東京農工大学副学長 佐藤勝昭

東京農工大学に大学教育センターが設立されてから3年が経過しました。本センターは、大学教育ジャーナル第2号の巻頭言に小畑学長が書いておられるように、大学院部局化にともなって本学の教育の全面的な見直しを狙って発足し、学部教育から大学院教育まで広範な教育内容について長期的・全学的視野に立って企画・提言することが要請されてきました。実際、平成18年度カリキュラムへの提言、TOEICの導入の企画、放送大学科目導入試行の提案、学内GPの実施、高大連携を初めとする入試広報、AO入試を含む入学者受入方法の検討と提言、大学教育委員会の委託によるシラバスの管理・運営および学生による授業評価の企画と実施、初任教員研修、TA研修、FDセミナーなどを行い、本学の教育をしっかりと支える役割を担ってきました。このほか、理系大学における教養教育のあり方を探るなどのシンポジウムを開催し、ニュースレター、リーフレット、大学教育ジャーナルを刊行するなど本学の教育デザインを先導していることはご承知のとおりです。

平成18年度、本学は大学評価学位授与機構による「大学機関別認証評価」を受審しました。このための自己評価書は、全学計画評価委員会のもとに置かれた自己点検評価小委員会が受け持ちましたが、全ての記述には根拠資料を示す必要があり、そのためのデータ整理・分析、アンケートの立案・実施・解析などについて、本センターに全面的な協力をしていただきました。センターの協力なしには、あの膨大な自己評価書は完成しなかったでしょう。

訪問調査（平成18年11月）において機構は特に本センターに強い関心を寄せ、2日目にセンター関係教職員に対する予定外のインタビューが行われたほどでした。そして、2月初めに機構から示された評価結果（案）では、9項目の「優れた点」が掲げられ、「全学的な視点から教育及び学生の受入に関する研究、企画及び調整を行う大学教育センターが設置されている」および「定例FDセミナー、新任教員のためのセミナー及びベスト・ティーチャー表彰制度の受賞教員による講演会の開催など、大学教育センターを中心に学内のFD活動が活発に行われている」という2項目で、本センターが高く評価されました。そのほか、多くの評価基準、観点において、上に述べた授業評価アンケートをはじめ、本センターで実施している事業が引用されています。

このように、第三者から見て、本センターは本学の教育を語る上で欠くべからざる存在と見られているにもかかわらず、本学の構成員に必ずしもよく理解されていないことが気になるところです。センターでは、このほど自己点検評価活動を行い、やっている活動をもっとアピールするとともに、もっと構成員の中にとけ込めるように自己改革を進めようとしています。

国立大学協会では、国立大学を「知の創造拠点」と位置づけ、その役割を果たすために大学がなすべきことを提言しています。知の創造には大学院における教育研究が主要な役割を担うことはいまでもありません。このために本センターは、学士課程から大学院課程への教育を一体のものとして捉え、確かな知の礎のうえに、課題探求型の知の創造の場を築き上げる教育のデザインをめざしていかなければなりません。この作業は、本学全教員の理解と協力によってはじめて可能になるものだと考えています。これに向けてのセンター関係者の努力と、全構成員のいっそうのご理解をお願いする次第です。